全国学童保育連絡協議会

< 普及拡大

みんなで読もう! 目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が 書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている 月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2023年10月27日

元気が出る みんなの 取り組みを ご紹介

楽しく普及拡大

学童保育の魅力、 共感できる子育て をお伝えします。

ほいく誌を話題に 保護者も指導員も 盛り上げよう!

ほいく誌の購読に繋げる「ちょっとひらいてみぃ~ひん」を発行!

2023 年度から大阪連協内にニュースチームをつくり、毎月「ちょっとひらいてみぃ~ひん?」を 発行しています。 なつかしの私のおすすめ No.1 に輝いたのは 『子どものけんかってすごい――発達 的理解と対応』赤木和重先生(神戸大学)の記事(2018年11月号に掲載)。子どもたちのけんかが 起こると大人は「けんかをおさめるにはどうしたらいいか」と考えてしまいがちですが、子どもにとっ てはどうか?という視点で、学びがいっぱい。コロナ禍を経たいま、ニュースを使って、あらため て話題にしてきました。

この記事を読んだ指導員さんの「けんかを見たら『もうけんかせんとこや』じゃなくて『質の高 いけんか』目指そう!」とワクワクされている姿も、ニュースに載せました(ぜひご覧ください)。

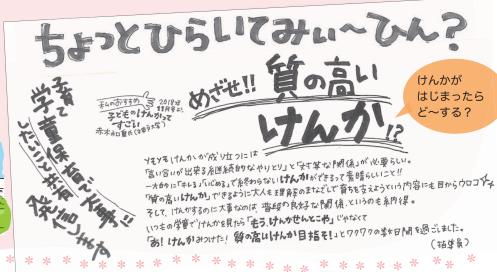
「子ども理解の深まり」「学童期の育ちに大切なこと」がたくさん載ってる『日本の学童ほいく』 をもっと多くの人に読んでもらえるように普及拡大に取り組んでいきたいと思います。

まずは『日本の学童ほいく』を「ちょっとひらいてみたくなる」話題づくり、がんばってます。

大阪府

取り組み





日本の学童ほいく10月号

特集 保護者と指導員の 伝えあい

子どもが安心できる学童保育を

今回の特集では、学童保育関係者が日々積み重ねてきたことから学び、子ど もの成長を支え、保護者と指導員の理解を深めあらためには子どもの様子を 「伝えること」「伝えあう関係」が大切であることをあらためてたしかめあいます。



普及拡大

2023年10月27日

ニュース

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

* * * * * * * * * *

読者の声

長野県松本市●保護者から

子どもがようやく寝た22時頃、イソイソと起きて リビングへ。さあ、これからが誰にも邪魔されない「至 福のひととき」のはじまり。ウキウキ♪ そぉ~っと 洗濯物を干して、そお~っとたまった食器を洗い、そお ~っとキッチンをリセットし、そぉ~っとリビングの片 づけをしてモップをかける。ここまででだいたい一時 間。とにかく子どもを起こさないように、万全の注意 を払いながら……。そして、キンキンに冷えたビール を片手にソファにダイブ! 大好きな、お笑い番組を 見逃し配信で見て一人で笑う。ほんのり酔ってくると、 イライラする子どもの大量の工作などもいとおしく眺 められる自分がいる。1時間程度、至福の時間を味わっ ていると、「母~ちゃん!!」と、末っ子の夜泣きの声で、 私の夢の世界は終了(これがないと徹夜で見てしまう ので、「ありがとう」と思うようにしています。歯を磨 いて私も寝室へ。わずかな1時間程度の自分だけの時 間が、なによりホッとできる時間です。

『日本の学童ほいく』2023年10月号「読者からの投稿」より

石川県金沢市●保護者から

ホッとしたいときに大切なアイテム、それはコー ヒー。家事が一段落したときに入れるドリップコー ヒー、夏は前夜につくった水出しアイスコーヒーな んかもいいね~。そして「特別」は、喫茶店で飲む コーヒー。誰かに入れてもらったコーヒーをゆっく り飲める時間は、最高におだやかな気持ちになりま す。ティーブレイク好きの家族のおかげで、幼い頃 から喫茶店が好きな私。一人暮らしをはじめてから も、空いた時間にぶらりと喫茶店に行っていました。 コーヒーを飲みながら手帳を開いたり、読書してみ たり、悩みごとについて考えたり……。心のなかを 整理する時間でもありました。仕事や子育てにバタ バタする今日、一人、気楽に喫茶店に行くことはハー ドルが高いことですが、まれに、平日に休みができ たときなど、短時間でも喫茶店に行って心を整えた いと思っています。忙しくてココロが疲れていると きこそ……。小学一年生の娘が、「大人になったら 一緒にコーヒー飲もうね」と言ってくれて思わずニッ コリ。そんな日を楽しみにしています。

『日本の学童ほいく』2023年10月号「読者からの投稿」より



私がほいく誌の購読を始めたのは、今年中学1年生になった息子が、小学校3年生のとき。この年、父母の会の会長を引き受けることになり、他の父母の会のことが知りたくなったことがきっかけです。当時は仕事と日々の子育てに追われ、ゆっくり本を読む時間も取れないほどでした。そのころからの私のルーティンは、ほいく誌が手元に来たら、まずパラパラとめくって気になるところから読み進めること。心に余裕がないと、ちょっとむずかしい話やたくさんの活字に疲れてしまうので、そんなときは、子どもたちが書いた絵や作文だけを読みます。そうすると、いつの間にか、心が少しだけほぐれていくような気がするのです。そして、休みの日にはほいく誌に載っていた、料理やおやつを息子と一緒に作ったりします。息子のことで悩んだときも、つらかったコロナ禍の自粛期間中も、いつもほいく誌を読むことで、会ったことのない誰かに寄り添ってもらえているように思ったり、背中をそっと押してもらえているように思ったりしました。私にとってほいく誌は、育児書だったり、テキストだったり、料理本だったり、私を支えてくれる仲間だったり……。その時の私の状態によって変化します。そんなほいく誌なので、1人でも多くの人の手に届いてくれたらいいな、と思っています。

私と「ほ・い・く・誌」

第5回全国学童保育研究集会で特別報告をする読者リレー執筆・今月は東京都文京区から

